

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「一人ひとりを大切に、主体的に、考え、みんなで話し合い、行動する子ども」の育成	(1)確かな学力 ・基礎・基本を習得しよう。 ・表現力(司会力,話し合う力,記述力)を身に付けよう。 (2)豊かな心 ・多様性を認めよう。 ・仲間づくりをしよう。 (3)健康な体 ・命を大切にしよう。 ・外で元氣よく遊ぼう。



3 目標・評価						
①確かな学力を身に付ける。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	自らの目標に向けて努力する気持ちを高め、行動する教育活動の推進	・授業の振り返りを実施し、「わかった」「自分でできた」と評価する児童を80%以上にする。 ・授業改善に向けて、全教員が授業公開を1回以上行う。	・授業の振り返りを全ての教科、毎時間行うように校内で共通理解を図る。 ・授業改善に向けて校内授業研究会を行ったり、授業校内週間を設け、相互参観を行ったりする。	総務部	教頭
教育活動	●学力の向上	主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の推進	・「自分の意見や考えを発表できる」「友だちの意見や考えを聞ける」という児童を80%以上にする。 ・目標準拠学力調査(CRT)では、全学級が全国平均を上回るようにする。	・全教科等で学力向上アクションプランを実施し、児童司会型授業、パーソナルワーク、グループワーク、クラスワークの展開を重視する。 ・グループワークの充実を図る。 ・話し合い活動マニュアルの活用を通して、話し合い活動を充実させる。 ・国語タイムやスピーチタイムで、学び合いの基盤づくりを行う。	研究推進部	吉田
教育活動	●学力の向上	家庭学習の習慣化	・「家庭学習は、学習のめやすで示された時間程度している」という保護者を75%以上にする。	・相知小版「家庭学習のすすめ」、県版「家庭学習の手引き」を配布し、家庭との連携を図る。 ・家庭学習(自主学習)の具体的な取り組みを提示し、児童や保護者の意識を高めていく。 ・宿題を工夫する。	研究推進部	吉田
教育活動	●学力の向上	読書活動の推進	・「読書が好き」という児童を80%以上にする。	・読書感想文、ショート絵本、ポップなどの展示を促進する。 ・図書館の環境整備の実施及びガイドブックの展示をする。 ・家庭と連携して「家読」の奨励を行っていく。	図書館教育	西村 森田 中村
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICTを利活用した教科・領域等での授業実践	・授業でICT機器の利用率を平均80%以上にする。 ・「ICTを使った授業は分かりやすい。」と答える児童を80%以上にする。	・各学級の実践や授業研究会において、職員がICTの効果的な利活用について学ぶ機会を設ける。 ・ICT利活用アンケートを定期的に行い、ICT利活用に関する意識や実態を把握する。	情報教育	鵜池
②豊かな心を育てる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	あいさつの実践	・「あいさつの合い言葉ができた」と自信をもって言える児童を80%以上にする。	・あいさつの合い言葉の掲示と学校便り等で周知を図る。 ・教室に入るときあいさつ等、教師自身が身近なモデルとなって、実践を推進する。 ・あいさつ・広報委員会の活動や、クラス別のあいさつ当番などを通して、児童主体のあいさつ運動を実施する。	生徒指導部	中村 峰
教育活動	●心の教育	認め合う人間関係づくり	・児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・縦割りグループで清掃活動や栽培活動を行い、高学年の主体性や責任感を高める。 ・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認めるようにする。 ・なかよしタイムの充実を図る。 ・「自己理解」「他者理解」「助言と賞賛」を中心に据えて学習活動を充実する。	心の教育部	中島
教育活動	●特別支援教育	配慮が必要な児童への支援の充実	特別支援教育の考えを理解し、児童の特性や習熟度に応じた指導方法を工夫する。	・配慮が必要な児童の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、適宜、教育支援会議を開き、共通理解を図りながら支援を進める。 ・長期休業中に、特別支援教育について研修会を開き、特別支援教育の考え方を理解するとともに具体的な支援の方法を学び、支援に生かす。 ・外部機関と連携し、支援の充実を図る。	特別支援教育担当	堤 麻生 田中
教育活動	○生活指導の充実	基本的な生活態度の定着	・正しい言葉遣いや返事をする、呼び捨てをしない児童を80%以上にする。 ・「かつおの約束」ができる児童を90%以上にする。	・正しい言葉遣いや返事ができるように学習指導と生活指導の両面で身に付けさせる。 ・人権教育と連携し、言葉への意識を高める。 ・重点週間を定期的に設け、自己評価による点検活動を実施する。	生徒指導部	秀島

教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見・早期対応	・よりよい学級づくりを目指す。 ・未然防止と早期発見、早期対応、再発防止のための予防的指導を行う。	・Q-Uの結果をもとに研修を行い、全職員で心に留める児童を見守り、支援する。 ・いじめアンケート、日常の観察や生活指導協議会の情報交換からいじめの早期発見に努め、学年グループや全職員で組織的に対応していく。	生徒指導部	秀島
------	------------	---------------	--	--	-------	----

③健康な体をつくる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化	・「楽しんで運動に取り組む」と答える児童90%以上にする。	・体育委員会の児童を通して、昼休みなどに「外遊び奨励」の放送を行う。 ・児童が、楽しんで運動できる体育の授業を工夫する。 ・なわとび、ランタイムを実施する。 ・県主催のスポーツチャレンジ等に参加する。	健康づくり部	川添田中
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食をとって登校する児童の割合を90%以上にする。	・保健便りやアンケートを通してバランスのとれた食事をとることや朝食をとることの意義の理解と啓発を行う。	健康づくり部	山口恵原口

④業務改善を図るとともに、情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。

学校運営	○保護者・地域との連携	保護者や地域の人材の活用	・学校支援ボランティア組織「あおがし応援団」の拡充を行う。 ・全学年で、年間を通じ1回以上、保護者や地域の方の人材を活かした教育活動を行う。	・「あおがし応援団」を募り、支援者を広げて、保護者や地域の人材を活用しやすくする。 ・支援者との事前・事後の話し合いを深め、教育活動を充実させる。 ・年間計画にそって活動し、学校・学級便り等を通して広報活動を行い、保護者や地域の理解を求める。	総務部	教頭
学校運営	○保護者・地域との連携	開かれた学校づくり	・児童と保護者の本校の重点目標等の認知度を80%以上にする。 ・授業参観の出席率を80%以上にする。	・学校教育目標を学級経営に位置づけ、具体的な実践を行う。 ・本校の重点目標等の情報を学校便りやHP、懇談会等で積極的に発信する。 ・児童に定期的にめあての振り返りをさせる。	総務部	教頭
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	職員研修の活性化	・OJTを中心とした教員の実践的指導力の向上を図る。	・校内研究会、職員研修会を充実させ、若手教員等のスキルアップを行う。	総務部	教頭
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携、情報共有を図り、効率的な業務への取り組みを推進する。 ・各教職員の時間外勤務を1ヶ月当たり前年度比で20%削減する。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・事務室との校内調整を図り、学校徴収金事務について工夫する。 ・業務記録票を基に各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	総務部	教頭

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目